今年度中に何とか計画概要、たたき台をまとめて、来年度以降に、広く意見を伺いながら実現に向けて、さらに進めていければと考えています。

Q　蓮沼庁舎を壊すとも聞いて、私の地元でも、もったいない活用すべきという声も多くある。しかし、多機能を備えた防災施設を含めて、今、考えていただいているということだが、避難施設としての役割、また、一方では道の駅がある。集客をする施設として、観光の施設としての機能を備えた建物にしてもらえれば、地元を挙げて、歓迎したいと考えている。この件について、市長の考えはどうか。

A　市長　私も、できれば既存の施設を有効利用できるものであれば、それにこしたことはないと考えてまいりましたが、昨年の3月11日にこのような災害が発生して、多くの方々が甚大な被害をこうむりました。このことは、やはり、蓮沼地域にとっての大きな課題を、そこで与えられたということです。

この際、避難場所と蓮沼地域のにぎわいをもう一度取り戻す、あるいは、オライはすぬまなど、蓮沼地域での集中が見られますので、ここにさまざまな機能を盛り込んで、賑わいを創造できるものにしていければいいなと考えております。

地元の皆様方の考え方が一本にまとまって行けば、できるだけ早く、実現していきたいと考えています。

個人質問

蕨　眞　議員

●教職員の多忙化解消を

Q　国は月80時間の超過労働を過労死ラインとしているが、現在、大多数の教職員が、この過労死ラインを超えた労働をしているとの調査結果も出ている。

今年6月の成東小学校と松尾中学校のアラーム設定の状況の資料を見ると、成東小学校の場合は、出勤はおおよそ朝6時から6時半、退勤はほぼ夜の11時前後で、12時を過ぎるケースも出ている。また、土曜、日曜の出勤も常態化している。次に、松尾中学校の場合は、出勤は大体朝の5時から6時、退勤はほぼ夜の10時過ぎで、翌日の1時を超えるケースも2回出ている。これは教職員の多忙化を示す、一つの客観的な例だが、他の小中学校も同様な状況ではないだろうか。こうした実態を教育委員会はどのように見ているのか。

A　教育長　議員の質問で、この問題の重要性を多くの方々に知っていただく機会になればと思っています。この問題は両校に限ったことではなく、全市、東上総、県全体の学校でも同じような傾向があることは確かです。

県の校長会の調査研究部に属している本市の校長からも、「どこでも悩んでおり、どこの校長も、職員に対しては、早退を促しているけれども、なかなかうまくいかず、抜本的な解決方法はない」という話を聞いています。

Q　教職員の多忙化の根本的な原因は、教職員の数が少ないのにもかかわらず、なすべき仕事が多過ぎることだ。教職員は、授業や生活指導はもとより、部活動、給食指導、各種集金、そして運動会など多くの学校行事の準備に加え、日々の教育と余り関係のないと思われる研究授業、指導主事訪問、各種報告書の作成など事務的な手続に忙殺されている。

子どもたちの日々の教育に関係のない不要不急な作業はやめ、本当に必要なものだけを精選していくという作業を、教育委員会が中心になって進めることが必要ではないか。

また、教員の多忙化は単なる教職員の労働条件の問題ではなく、子どもの教育条件の問題だという観点で取り組んでいただきたい。

A　教育長　教育委員会の務めは現場の支援であり、多忙化解消に取り組んでいきたいと考えます。多くの人に教員の多忙化の実態を知ってもらい、必要以上のことを学校や教員に求めたり、過度の責任を負わせたりしない社会にしていきたいと思います。

また、各校長のリーダーシップで、校内職員間の連携協力や悩み相談ができる職場づくりをめざします。PTAとの一層の連携強化や、市教委独自採用職員の配置、年齢バランスを考えた教職員の配置、学校支援地域本部に代表される学校支援体制の構築、外部人材の一層の活用、法律アドバイザー事業の継続と充実などを行っていきたいと考えます。

●消防団のあり方の再検討を

Q　高齢化の進展や地域住民の結びつきが薄れる中、地域の実情に精通した消防団は、地域防災にとって不可欠の組織だ。今後、消防団が担うべき役割や仕事は増え、現行でも大きい個々の消防団員の負担がさらに拡大することが予想される。

こうした消防団の基本的な性格がボランティア組織だとするならば、消防団が担うべき役割と仕事は、余りに広く重いといえる。消防団の仕事を明確にし、消防団がボランティア組織でいいのか、それとも行政の防災機関の一部なのか、その位置づけを再検討すべきではないか。

A　市長　消防団員は、年々、減少の一途をたどり、市の防災力低下に直結しています。

市としては、消防団員の確保に向け、消防審議会や消防団と協議し、消防団活動の見直し、処遇